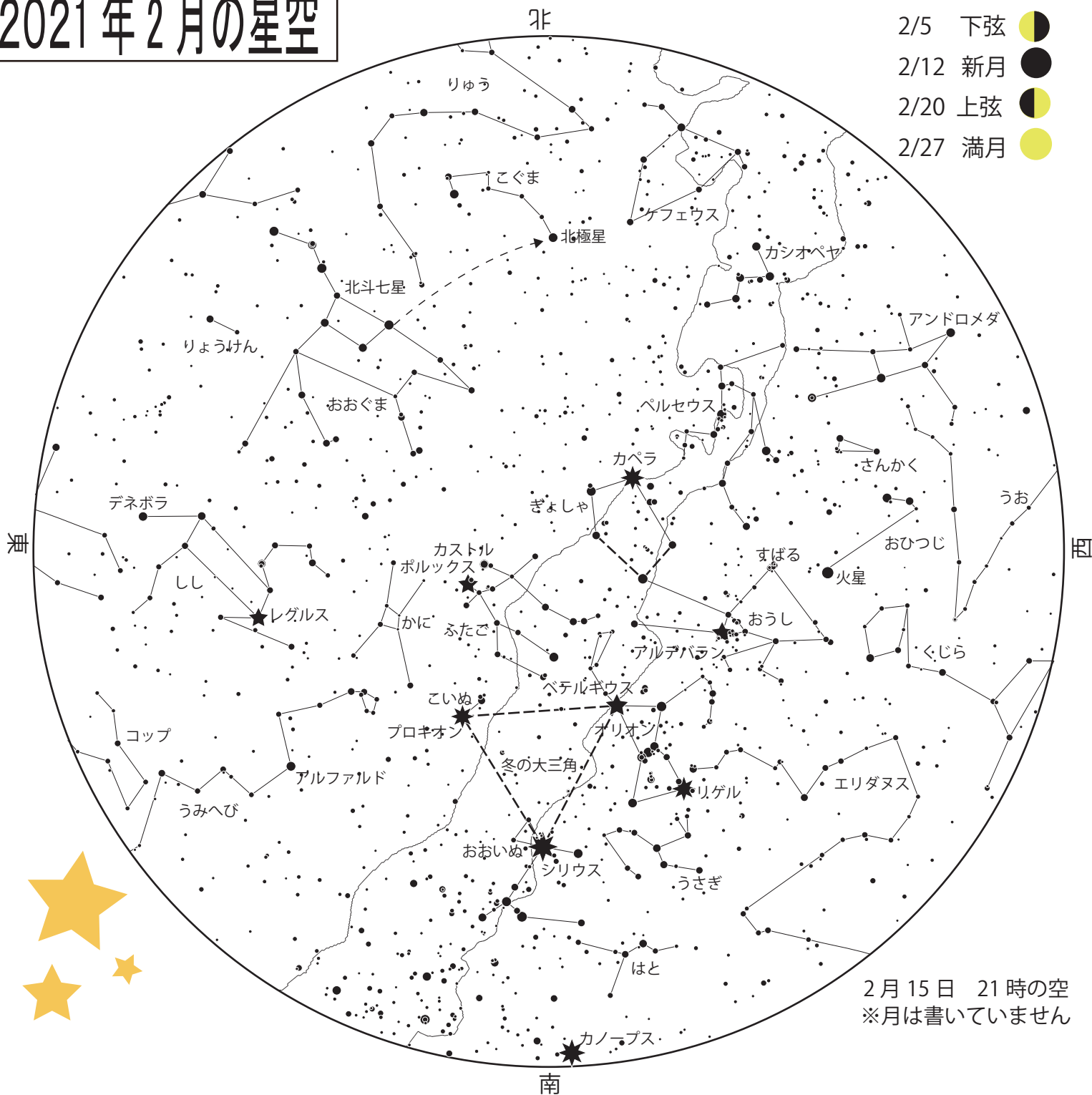


姫路で見る 2021年2月の星空

図の中心が頭の真上(天頂、まわりの円が地平線です。
この星図は見ている方向の方位を下にしてください。

- 2/5 下弦 
- 2/12 新月 
- 2/20 上弦 
- 2/27 満月 



2月15日 21時の空
※月は書いていません



南の空の冬の星座は、明るい星が多くにぎやかです。まず目につくのが南の空でひときわ明るく輝いているシリウスです。シリウスは全天でいちばん明るい星です。また、3つの1等星、このおおいぬ座のシリウスと、こいぬ座のプロキオン、オリオン座のベテルギウスを線で結ぶと、冬の夜空の目印「冬の三大星」ができます。そして今度は、ベテルギウスを取り囲むように、シリウス、プロキオン、ふたご座のポルックス、ぎよしゃ座のカペラ、おうし座のアルデバラン、オリオン座のリゲルとたどり、シリウスに戻ると、六角形の「冬のダイヤモンド」を描くこともできます。また、空気が澄んだ夜には、南の地平線(海辺なら水平線)の上にカノープスが見えるかもしれません。カノープスは、シリウスに次いで全天で2番目に明るい恒星ですが、姫路から見ると大気で大幅に減光されるため、赤みがかった暗い星に見えます。中国では南極老人星といい、見ると寿命がのびるとされています。

冬の星が目立ちますが、東の空にはもう春の星座、しし座やおおぐま座が上ってきています。おおぐま座の北斗七星からは北極星をさがせます。

西の空にはまだ火星が見えます。地球に大接近していた頃にくらべるとだいぶ暗くなりましたがこの機会にぜひ夜空を眺めてみていただければと思います。